

3 学習センター活動報告

3.1 言語学習センター活動報告

1. 構成員

センター長（1名）、副センター長（1名）、専任教員（1名）、係員（1名）
学生チューター（計 29 名）

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	交換 留学生	院生	研究生	科目等 履修生	合計
前期	1	3	3	2	2	0	0	2	13
後期	2	3	4	3	2	0	0	2	16

☆ 平成 30 年度は前期 13（日 8：※外 5）名、後期 16（日 11：※外 5）名のチューター体制で運営した。

※(外)は正規留学生、交換留学生を含めた外国人学生を意味する

対応可能言語：英語・日本語・タイ語・ポルトガル語・スペイン語・フランス語・タガログ語・ウォルフ語・中国語・マレー語（10 か国語）※今年度 4 月より、2 名の日本語専属チューターを配属した。

2. 言語学習センターの活動目的

- (1) 学生に外国語を学ぶ最良の場を提供する。
- (2) 学生チューターが学生の自主学習の促進と学力向上をサポートする。
- (3) 学内外の語学学習者に異文化交流（理解）の機会を提供する。
- (4) CRLA(College Reading & Learning Association)の免状による ITTP
(International Tutor Training Program) 修了証明書の取得によって学生（チューター）の質の向上を目指すとともに、よりよい学習支援と学習環境開発を目指す。

3. 平成 30 年度言語学習センター利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	WS	合計
2017	2334				0	14	489	512	322	482	180	545	4878
2018 実人数	400	455	276	329	80	6	234	238	221	313	114		2666
2018 延べ人数	726	1107	645	781	110	6	515	594	455	657	152	355(前) 99(後)	6202

(1)月別利用者数(平成 30 年 04 月 11 日～平成 31 年 02 月 08 日) 2017 年度との比較表

昨年度（2017 年度）の利用者合計と比較すると今年度は約 21%増なっている。内訳（ここでは示されていない）によると、課題、特にリスニング（10%：181 名）とチュ

ータリング（5%：131名）の課題が増加していることが示されており、多読多聴の課題等は連続して出題されることもあり、その結果すべての月で利用者が増加している。ワークショップに関しては、今回、初めてのチューターが個人で開催したり、宣伝が弱かったり、時間割が利用者と合わないことなどがあり、昨年度と比較して減少している。昨年度は、特にラテンアメリカ異文化WSの参加者が約130名の参加者（一般参加も含め）があったため、異例な数字となっている。授業連携に関しては、前後期とも同様のバランスでLLC活用課題が出題された。

英語および日本語以外の第二言語のチュータリングに関しては、中国語、スペイン語、ポルトガル語、マレー語、の順に活用された。韓国語に関しては、韓国語担当チューターが採用されていなかったため、利用されていない。中国語に関しては、授業連携による検定書籍活用が多く見られた。

(2)学年学科別 LLC 図書利用状況（平成 30 年 4 月 11 日～平成 31 年 2 月 8 日）

全図書数：4,384 冊

	1 年 国	1 年 看	1 年 ス	2 年 国	2 年 看	2 年 ス	3 年 国	3 年 看	3 年 ス	4 年 国	4 年 看	4 年 ス	E 年 特	合 計
2017	684	2	2	38	4	1	22	0	2	11	0	0	28	794
2018	1078	259	5	102	1	0	23	8	0	33	2	0	2	1513

LLC 図書の貸出し状況は、英語の課題としての多読図書の利用が多く、英語が必修の一年次の利用が顕著に表れている。また、英語能力試験の図書利用も多いため、国際学群の利用が多いのが特徴である。今後も学生のニーズ調査を行いながら、図書による自主学習を推進させていく予定である。

4. 平成 30 年度授業連携（添付資料参照）

授業連携については、英語科目や第二外国語科目（日本語、スペイン語、中国語）との連携があり、LLC 利用者の増加に大きく貢献した。詳細は以下の表の通りである。

2018 年度 授業連携 表	講義数		課 題 種 類					
	前 期	後 期	T R (チュータリン グ)	リスニング	D V D	書籍	活動 ゲーム	*その 他
英 語	9	10	11	11	5	12	1	2
第二外国 語	4	5	8	1	0	0	0	1

*「その他」には e ラーニングや自主学習等の課題を含んでいる。

言語学習センターの平成 30 年度授業連携は英語が 8 名の教員による 19 クラス、第二言語（日本語を含む）が教員 3 名の 9 クラスで、合計 1306 名を対象に実施した。結果 3562 名が実際に課題で言語学習センターを利用した。結果の数値が多い理由は、ひとつの課題にいくつかのタスクが課せられており、同じ学生が何度か利用したための利用者数（延べ人数）である。課題にはチュータリング、視聴覚教材によりリスニングプラクティス、および多読多聴などがあった。

5. チュータープロジェクト

本学学生の外国語学習サポートなどを目的に、チューターが各自の得意分野や経験を活かして、毎学期プロジェクトを企画・実施している。プロジェクトには、学生の外国語学習を支援するワークショップと LLC の運営改善を目的にしたプロジェクトがある。今年度は LLC 運営改善のためのプロジェクト、外国語能力向上および異文化理解につながるワークショップなど、バランスよく実施された。特に後期に行われた IELTS や英検など試験対策講座は高い評価を得、実際に実績につながったと参加した利用者の声もあった。学生のニーズに反映しているワークショップはやはり成功するため、今後は、このようにニーズの高いワークショップをどのように継続ワークショップとして引き継いでいくのが課題である。平成 30 年度に実施したプロジェクト（ワークショップを含む）は以下の通りである。

前期（計 6 プロジェクト）

- ① セクションワークマニュアル作りプロジェクト
- ② 基礎から学ぶ英語
- ③ みんなで English 会話
- ④ ラテンアメリカワークショップ
- ⑤ 中華文化ワークショップ
- ⑥ 日本で生活するための 5 つのコツ

後期（計 8 プロジェクト）

- ① スコアスクール IELTS 試験対策
- ② LLC 過去データのデジタル化プロジェクト
- ③ 英文法のワークショップ
- ④ LLC パンフレット作成プロジェクト
- ⑤ 教室で世界を知る(異文化理解)
- ⑥ LLC プロモーションビデオ制作プロジェクト
- ⑦ 英検 2 級面接対策
- ⑧ 日本語専属チューター活動報告

6. チューター育成について

(1) チュータートレーニング

LLC では、チューター技術向上のために、米国 CRLA(College Reading & Learning Association)による ITTPC(International Tutor Training Program Certificate)国際チューター育成プログラムを導入し、毎週一回（2 時間）トレーニングを開催している。トレーニングの内容は次のとおりである。

（レベルは初級レベルから L1=レベル 1・L2=レベル 2・L3=レベル 3 となる）

前学期

回	日時	トレーニングの表題
集中研修会	4 月 3 日	1. Definition of Tutoring & Tutor Responsibilities (L1)

		2. Basic Tutoring Guidelines Do's and Don'ts (L1) 3. Techniques for Successful Beginning & Ending a Tutoring Session (L1) 4. Identifying & Using Resources (L2) [New Tutors] ★CRLA Criteria and LLC Tasks ★How to prepare for a training session [Experienced Tutors] 5. Training & Supervising other tutors (L3)
第 1 回	4 月 13 日	6. Assertiveness and/or Difficult Students (L1)
第 2 回	4 月 20 日	7. The Role of Learning Centers in Higher Education (L3).
第 3 回	4 月 27 日	8. Setting Goals/Planning (L1)★Orientation for Workshop
第 4 回	5 月 11 日	9. Role Modeling (L1) [New Tutors] 10. How to Tutor/Deal with Target Population (L3) [Experienced Tutors]
第 5 回	5 月 18 日	CRLA プロジェクト案 発表会
第 6 回	5 月 25 日	11. Referral Skills (L1)★How to write abstracts
第 7 回	6 月 1 日	12. Group Management (L3)
第 8 回	6 月 8 日	13. Communication Skills (L1)
第 9 回	6 月 15 日	14.Tutoring in Specific Skills / Subject Area (L2)
第 10 回	6 月 22 日	15.Use of Probing Questions
第 11 回	6 月 29 日	新チューター選出会議 (平成 30 年度後期)
第 12 回	7 月 6 日	16.Cultural Awareness and Inter-Cultural Communication (L2)
第 13 回	7 月 13 日	CRLA プロジェクト発表会リハーサル
第 14 回	7 月 20 日	CRLA プロジェクト発表会
第 15 回	7 月 27 日	Summary for the Semester (Tutor's feedback & Professors' feedback)

後学期

回	日時	トレーニングの表題
集中研修会	9 月 25 日	1. Definition of Tutoring & Tutor Responsibilities (L1) 2. Techniques for Successful Beginning & Ending a Tutoring Session (L1) 3. Basic Tutoring Guidelines Do's and Don'ts (L1) 4. Identifying & Using Resources (L2) 5. Training & Supervising other tutors (L3)

第 1 回	9 月 28 日	6. Assertiveness and/or Difficult Students (L1)
第 2 回	10 月 12 日	7. Setting Goals/Planning (L1) ★Orientation for Workshop CRLA Criteria / How to prepare for training sessions
第 3 回	10 月 19 日	8. Role Modeling (L1)
第 4 回	10 月 26 日	CRLA Project Proposal
第 5 回	11 月 02 日	9.Group Management(L3)
第 6 回	11 月 09 日	10. Referral Skills (L1)
第 7 回	11 月 16 日	11. Communication Skills (L1) 12. How to Tutor/Deal with Target Population (L3)
第 8 回	11 月 20 日	13.Tutoring in Specific Skills / Subject Area (L2)
第 9 回	12 月 07 日	14. Use of Probing Questions(L2)
第 10 回	12 月 14 日	15. The Role of Learning Centers in Higher Education (L3).
第 11 回	12 月 21 日	新チューター選出会議（平成 31 年度前期）
第 12 回	1 月 11 日	16.Cultural Awareness and Inter-Cultural Communication (L2)
第 13 回	1 月 25 日	CRLA プロジェクト発表会リハーサル
第 14 回	2 月 1 日	CRLA プロジェクト発表会
第 15 回	2 月 8 日	Summary for the Semester (Tutor's feedback & Professors' feedback)

(2)チューター評価

チュータートレーニングの一環として、以下の三つの評価を行った。

➤ チュータリングの評価

チューター同士がお互いのチュータリングを評価し、良い点や改善点を指摘する。
学期に三回実施した。

➤ チューター自己評価および他者評価面接

教員とのチューター評価面接を各学期に実施（前期 3 回・後期 2 回）した。

➤ チュータリングを受けた学生からの評価

チュータリングを受けた学生から、チュータリングについての評価。チューターは最低 5 名以上の利用者からチュータリングに関しての評価をうけた。

7. CRLA によるチュータートレーニングプログラム修了証明書 (ITTPC) 取得者数

	マスター(L3)	アドバンス(L2)	サーティファイド(L1)	取得者合計
H30 前期	2	4	6	12
H30 後期	2	5	7	13
H30 年度	4	9	13	25
*全体合計	45	98	181	324

*平成 14 年度後期から平成 30 年度後期までの間に、合計 324 人の学生が修了証明書を取得した（マスター45 名、アドバンス 98 名、サーティファイド 181 名）。

8. 新企画活動報告

① 日本語専属チューター 2 名の採用

今年度 4 月より、日本語学習者（留学生）を対象とする日本語専属チューターの採用を実施した。応募資格は、日本語教師を目指す学生で日本語を副専攻とする科目の 3 分の 2 を単位取得している学生としたため、3 年次あるいは 4 年次の学生の応募となる。また、日本語専属チューターは、LLC 運営に関与せず、CRLA 証明書取得についても、オプションとなる通常のチューターと異なった制度となる。前期は初の試みということもあり、卒業生（科目等履修生）1 名と 4 年次 1 名を採用し、日本語チューターシステムの基礎を構築しながら、実践を行った。日本語教員および国際交流センターとの連携をうまく活用し、今まで以上に多くの留学生の利用者を得ることができた。試行錯誤しながらも後期はチュータリングおよびワークショップ共に多くの留学生支援をおこなうことができ、今後につなげることができた。

② オンライン予約トライアル実施（チューター作成）

今年度 4 月～11 月中旬 マスターチューターによるオンライン予約システム作成およびトライアルを実施した。Google のアプリを使用し、LLC のホームページからアクセスする形をとったが、専門のサポートがなかったため、ダブルブッキングが何度か生じたことから、後期の半ばで中止とした。アイデアと実践する態度は高く評価したいところであるが、専門家のサポートを得られなかったことは今後の課題となる。

③ リーダーによる新規応募者事前面接の開始

今年度後期新チューター採用の際、リーダーたちの事前面接をすることで、学生の目線から申請者に LLC の業務を分かりやすく伝えること、および申請者の適正を確認することがチューターリーダーたちから提案され、実施した。申請者は、まず 3 名のリーダーのうち 1 名と予約面談し、LLC の業務と申請者の予めの質問（があれば）に回答する。その後、申請者が LLC に申請したい気持ちがあれば、専任教員と面接をし、チューター申請手続きを進めていくという形をとった。申請者が事前に LLC 業務の情報を知る事で、心構えできると、リーダーたち（学生の立場で）申請者をサポートできる良い結果を得ているため、今後も継続する。

④ 英文アブストラクト確認支援チュータリング

昨年度トライアルにて LLC での卒論英文アブストラクトの英文法チェック支援が始まり、今年度は本番となった。論文自体執筆経験のないチューターがほとんどであるため、英文法の確認とアブストラクトの流れを、資料を基に確認することを中心とした支援を行ったが、卒論アブストラクト作成は完成最後に行う作業であるため、英文アブストラクトの確認のための利用者が、学期末の最後の 1 週間に殺到することになり、チューター達がとまどうことが多かった。今後、LLC で効果的

な支援を進めるためには、4年次（ゼミ）担当教員と話し合い、どの程度までをLLCで確認すべきか、また、いつごろまでにどのくらいの人数が来る予定かなどの情報共有を確定することで、スムーズな支援が可能かと考える。

⑤ チューターミーティング（30分）の導入について

今年度、マスターチューターより、チューター同士のコミュニケーションや情報共有がうまく言っていないため、チューター達のための情報共有あるいは意見交換できる話し合い時間がほしいとの要望があった。そのため、定例集会の残り30分間を、監督者としてスタッフおよび教員がバックオフィスに待機する形でみまもり、チューター達のための話し合い（30分間）を定例ミーティングとして実施した。初めてだったことや時間配分の問題もあり、実際には合計15回（前期9回・後期6回）ほど実施となった。結果として見えてきたことは、チューター同士の話し合いを正直に話し合える場を設けたことで、チューター間の一致が増したように思う。しかしながら、始めたばかりなので、大きな結果は今後期待したいところである。

9. その他の活動

4月：LLC チューターオリエンテーション（3日）

新入生ガイダンス（3日～9日）LLCの紹介

5月：第一回チューター評価面接（1日～18日）

プロジェクト案 発表会（18日）

プロジェクト実施（5月21日～7月6日）

6月：チューター公募期間（5日～22日）

第一回オープンキャンパス参加（9日）

チューター選考会議（29日）

7月：第二回チューター評価面接（2日～12日）

LLC 前期プロジェクト発表会（20日）

8月：第二回オープンキャンパス参加（11日）

9月：LLC チューターオリエンテーション（25日）

10月：ASC 主催公開シンポジウム「大学におけるピア・ラーニングの方法と実践」

シンポジウムへの招聘（20日）

開催地：神田外語大学（千葉県）

参加者：笠村淳子 LLC 専任教員

永田龍斗(LLC チューター長 3年次)

ジョップ・パパ・ムサ(LLC マスターチューター 4年次)

プロジェクト案 発表会（26日）

プロジェクト実施(29日～1月17日)

11月：第一回チューター評価面接（6日～16日）

琉球大学視察者学生6名、教職員2名対応（7日）

朝日大学視察者1名対応（16日）

大手門大学視察者対応（19日）

12月：チューター公募期間（4日～14日）

- チューター選考会議（21 日）
- 帝京大学視察者 6 名対応（21 日）
- 1 月：第二回チューター評価面接（7 日～17 日）
 - 明石工業高等専門学校視察者 1 名対応（21 日）
- 2 月：LLC 後期プロジェクト発表会（1 日）
 - 琉球大学 當間千夏先生 LLC プロジェクト発表会見学（1 日）
 - 福岡女子大学視察者 教職員 2 名、学生 1 名対応（26 日）

以上

備考：琉球大学では、12 月に学生チューターシステム GCC（グローバルコモンズコンシエルジュ）が立ち上がった。3 年前本学勤務であった山里絹子先生の繋がりから、琉球大学で学生支援システムを考案しており、LLC には何度か視察訪問していた。11 月 7 日には学生同士の交流も実現し、その後すぐに GCC スタートとなった。今後は、学生チューター同士の交流やトレーニングなどを計画予定である。

3.2 数理学習センター活動報告

1. MSLC の目標

- (1)数理系科目の学習支援及び数学苦手克服支援により学生の数理能力の向上を図る。
- (2)チューター主催の講座を実施し、チューター及び学生に数理系分野の興味・関心を広げる。
- (3)チューターの数理能力の向上、チュータリングスキルの向上、社会人基礎力の向上を図る。

2. MSLC チューターの重点努力目標

- (1)コミュニケーションスキルの向上
- (2)チューターの積極性と責任
- (3)幅広い活動

3. 数理学習センター構成員

- ・センター長：1人 副センター長：1人 センター職員：1人
- ・学生チューター 前期：16人 後期：14人

表1 平成30年度前期(後期)年次別・ランク別チューター数

	1年次		2年次		3年次		4年次		合計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
チューター	2	5	4	1					6	6
レギュラーチューター				2	6	2	1		7	4
アドバンスチューター					2	2		1	2	3
マスターチューター							1	1	1	1
合 計	2	5	4	3	8	4	2	2	16	14

4. MSLC 運営

- <会 計> ・出面表、勤務交代表のチェック ・勤務時間表作成
- <広報&メディア> ・月刊MSLC作成 ・名桜広報の原稿作成 ・ポスター等 ・SNSの活用
- <施設衛生> ・書籍管理(登録、確認、移動) ・備品管理(発注) ・電卓貸出
- <利用者統計> ・月別利用者統計 ・シフト作成への提案 ・TR時間集計 ・TR個別データの管理

5. 平成30年度のMSLC利用状況

1) 月別利用状況

表2 平成30年度(前期・後期)月別利用者数

月	4	5	6	7	8	小計	9	10	11	12	1	2	小計	合計
延べ数	220	920	749	635	119	2643	6	311	431	268	237	149	1402	4045
実人数	167	193	211	173	90	324	5	114	133	133	102	98	214	538
平均回数	1.3	4.8	3.5	3.7	1.3	8.2	1.2	2.7	3.2	2.0	2.3	1.5	6.6	7.5
授業日数	13	21	21	21	6	82	1	22	20	15	17	6	81	163
1日平均人	16.9	43.8	35.6	30.2	19.8	32.2	6	14.1	21.6	17.9	13.9	24.8	17.3	24.8

(※ 実人数の合計は前期と後期の単純合計)

2) 月別利用者数の推移

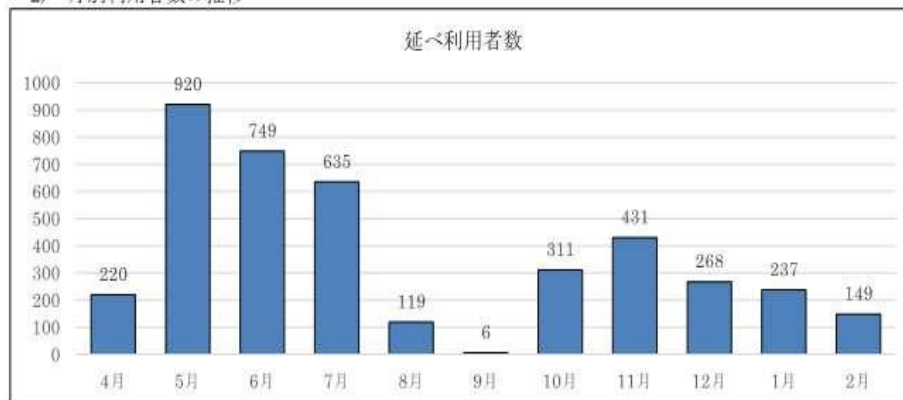


図1 平成30年度月別利用者数の推移

表3 前期・後期・学年別・学科別利用者数

	1年		2年		3年		4年		4年以上		合計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
国際学群	1096	591	343	106	128	219	54	28	7	0	1628	944
スポ健	129	14	26	0	0	43	0	7	0	0	155	64
看護	811	342	5	3	51	1	0	0	0	0	867	346
学院	0	1									0	1
その他											33	47
合計	2036	948	374	109	179	263	54	35	7	0	2683	1402
年間合計	1322		483		442		89		7		4085	

表4 目的別利用状況（TR：チュートリアル、OH：オフィスアワー）（講座と解答の重複あり）

	自習	解答・TR	講座	PC	本	OH	その他	合計
前期	53	2,381	135	27	8	30	64	2,698
後期	200	1,028	100	9	16	46	36	1,435
合計	253	3,409	235	36	24	76	100	4,133

【考察】

- ・前期は自然科学特別講義「統計学基礎」と「統計学」の受講者が増えたため利用者が大幅に増えた。後期は提出課題の多い「統計学基礎」がなく、「数学」と「統計学」の受講者が減少し利用者数が大幅に減った。年間通しては5年と比較では最高の利用者数であった。
- ・どの学年も国際学群の利用者が多く、国際学群においては1年次から4年次まで利用者がいる。
- ・看護学科は必修の統計学の連携授業があるため、1年次の利用者が多い。
- ・少しずつではあるが、1年次以外の利用者やスポーツ健康学科の利用者数も増えてきている。
- ・自主学習の促進も目的としているので自習で利用する学生が増えてきたことは良いことだと思う。

※表3と表4で前期の利用者総数が異なるのは、一人の学生が2科目連続で利用した場合、表3では利用者1人とカウントして、表4では利用者2人とカウントしているため増えている。後期からは連続した場合も利用者1人とカウントしている。

※目的別利用者数では、一人で自習とPC利用で出入することもあり延べ利用者数より増えている。

課題 入退室手続きをしない利用者の入力を手入力で行うため、手続きの有無のチェックに時間がかかることと、テックシステムに反映させられないことが課題である。

6. 平成 30 年度 活動内容

表 5 前期・後期活動内容

月	前期の活動内容	月	後期の活動内容
4 月	・平成 30 年度前期事前研修会 (9・10 日) ・数学検定対策講座 (23 日～)	9 月	・事前研修会 (9 月 8 日、9 日)
5 月	・電卓講座 (7 日～) ・統計学自主課題対策講座 (7 日～18 日) ・診療情報管理士勉強会 (9 日～) ・チューター面談 (7 日～11 日) ・新規チューターの募集 (14～21 日) ・統計学 Excel 講座 (21 日～24 日) ・統計学中間試験対策講座 (25 日～)	10 月	・数学検定対策講座① (10 月 3 日～) ・小学校教員採用試験対策講座 (10 月 9 日～) ・統計学自習課題対策講座 (10 月 15 日～) ・IT パスポート試験対策講座 (10 月 15 日～) ・センター長によるチューター面談 (10 月 8 日～10 月 12 日) ・統計検定対策講座 (10 月 15 日～)
6 月	・統計学中間試験対策講座 (～1 日) ・新規チューター研修会 (6 月 4 日、5 日) ・オープンキャンパス (9 日) ・チューター面談 (11 日～21 日) ・数学検定対策講座 ・電卓講座 ・中間試験対策講座 ・SPI 対策講座	11 月	・小学校教員採用試験対策講座 ・IT パスポート試験対策講座 ・統計学自習課題対策講座 ・統計検定対策講座 ・統計学中間試験対策講座 (11 月 9 日～) ・数学中間試験対策講座 (11 月 21 日～) ・看護に必要な計算トレーニング (11 月 28 日～) ・小学校教員採用試験対策講座 ・IT パスポート試験対策講座
7 月	・診療情報管理士勉強会 ・数学科学を身近に感じよう比地大滝トレッキングツアー(8 日) ・統計学発展課題対策講座 (9 日～14 日) ・看護に必要な計算トレーニング(12 日) ・数学検定対策講座 ・電卓講座 (～8 月 7 日) ・SPI 対策講座 (～8 月 7 日) ・診療情報管理士勉強会 () ・チューター面談 (7 月 30 日～8 月 3 日) ・平成 30 年度前学期プロジェクト発表会 (7 月 27 日)	12 月	・看護に必要な計算トレーニング ・新規チューターの募集 (12 月 10 日～1 月 17 日) ・数学検定対策講座② (12 月 17 日～) ・卒論のための統計:スガ健 (12 月 19 日) ・看護に必要な計算トレーニング ・数学検定対策講座② (12 月 17 日～) ・センター長によるチューター面談 (12 月 11 日～12 月 17 日)
8 月	・新規チューター募集 (7 月 9 日～8 月 7 日) ・期末試験対策講座 (数学・統計学基礎・統計学)	1 月	・センター長によるチューター面談 (1 月 29 日～2 月 1 日) ・平成 30 年度前学期プロジェクト発表会 (1 月 28 日)
		2 月	・データのまとめ・報告書作成 ・入学前特別講座 (2 月 12 日～15 日)

7. 連携授業の報告

(1) 表6 連携授業科目受講者数(前期250人:6科目8クラス、後期249人:7科目9クラス)

	数学	統計学	統計学基礎	人体構造・機能及び医療用語	臨床医学各論Ⅱ	情報処理論	
教員	高安	木村・高安, 仲程	高安	大城真理子	大城真理子	天願健	
前期	29	98	53	13	11	46	
	数学	統計学	医療統計学	臨床医学各論Ⅰ	診療情報管理系特別講義	コンピュータ概論	情報科学と社会
教員	高安	木村・高安, 仲程	木村	大城真理子	大城真理子	天願健	佐久本功達
後期	14	69	11	11	10	95	39

(2) 連携授業のまとめ

<前期:自然科学特別講義「統計学基礎」>

授業担当者 高安美智子

受講者:53人 出席率:92.8% 単位取得率:100%

教材 (1) ワークブック(予習課題・授業のワークシート・復習課題)

内容:統計検定3級程度の基礎問題から標準正規分布を活用した区間推定までの範囲

(2) 授業外学習教材

- ① レットトライ4回(No.1 四則演算、No.2 割合、No.3 比と比例式、No.4 濃度)
 - ② チャレンジ問題(チューターが作成) 基礎計算問題 4回
 - ③ 予習復習課題(15回)
 - ④ エクセル課題(3回) エクセル関数の活用
 - ⑤ 中間試験対策問題、期末試験対策問題(問題はチューターが作成)
- ※MSLCにて点検・チュータリングを行った。

(3) 講義のアシスタント(SA)として、MSLCチューターが講義中に学習支援を行った。

(4) 結果

表6 復習課題点検状況

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
期限内	16	9	20	24	35	28	31	20	20	17	18	23	21	21	303
期限外	33	39	30	27	15	21	19	26	26	26	26	20	23	16	347
未提出	4	5	3	2	3	4	3	7	7	10	9	9	9	15	90
提出数	49	48	50	51	50	49	50	46	46	43	44	43	44	37	650
提出率	92%	91%	94%	96%	94%	92%	94%	87%	87%	81%	83%	81%	83%	70%	88%

(5) 数学基礎力テスト正答率の結果



図2 学習前後の正答率比較

- ①全員が基礎力テスト8割以上に合格するまで実施した。
途中までどうせできないと諦めている受講生もいたが、全体的に基礎力の向上は見られた。
- ②他の連携授業に比べて授業外学習や課題提出が習慣化するまで時間がかかった。

(6) 中間試験の結果 正答率平均：74%

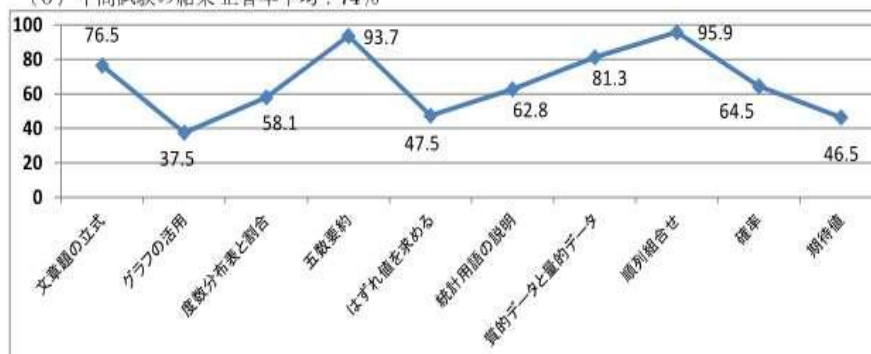


図3 中間試験単元別正答率

【考察】

- ①グラフの活用問題は、文章題は解けているがグラフでの解釈や表現が不十分であった。
- ②割合の単純計算はできるようになったが、具体的な問題を解く中で割合を求めることが不十分である。外れ値と期待値の問題は発展課題として授業では紹介程度に終わった問題であった。
- ③当初は予習・復習の習慣がなく授業に参加する人が多数であったが、遅れながらもある程度課題をやることで授業内容を理解することができるようになった。
- ④エクセル課題 NO.3 は、担当教員にメールで提出をさせたため、提出状況は改善された。メールのデータでは関数式を使用したかどうかが明らかになるので1人1人への対応ができた。
- ⑤レツトライやチャレンジ問題は提出義務はないが態度点として評価の資料とした。
- ⑥休んだ場合は補講を行い授業に遅れないよう配慮した。
- ⑦個別指導では理解ができるが、一斉授業では理解が難しい受講生もいた。

(7) 授業後の振り返りカード(第15回)の記述より

- ①まず数学力が向上したと思います。初めは見てもわからなかった問題が、今では、これはこういうイミだよと説明できるようになってきました。計算ミスは、今でも少しありますが、公式を理解したり、見直しをする習慣が身についたので、ミスを減らせてきました！
- ②統計学基礎の授業で、基礎的な計算や基礎力を身につけることができました。最初の頃は、全然できずに毎日難しいと思っていました。しかし、毎時間の授業の中でだんだん理解することもできてきて自分自身もっと学びたいと思うようになりました。今回習ったことを忘れずに自分の勉強につなげていきたいと思っています。
- ③計算能力が前に比べてあがったと思う。問題を読んで解き方を考えたりするのは、苦手だったけど、この講義のおかげで少しはその力をつける事ができたと思う。
- ④基礎力計算も27点(30点満点)で、最初より苦手意識はなくなったし本格的な統計の計算も出来るようになった。エクセルを使つての課題もあって、関数も使えるようになりました。やれば出来るので、前よりは苦手意識は無くなりました。
- ⑤確率や割合を少しのミスはあるけど、ちゃんと解けるようになりました。また、エクセルの相関係数を求めるのも少し難しかったけど、共分散や相関係数を求めるための関数(r)を覚えきれたので良かったし、成長出来たと思いました。

- ⑥高校の授業で曖昧になっていたところにしっかり取り組むことができた。数理学習センターに毎回行って苦手なところは聞くようにしていたので、苦手はほとんど無くすることができたので良かった。
- ⑦予習・復習を毎回期限内に提出し、内容を理解することができた。公式を覚え、ほとんどの問題が解けるようになった。また、チャレンジ問題などを通して数学的な考えを養うこともできた。
- ⑧講義の初めは、授業で理解できなかった部分をわからないまま、課題もやらずにただ講義を受けていたが、後半になって **MSLC** を利用して先生にも直接教えてもらい、わかるやできるが増え、達成感がありました。初めより理解することができました。
- ⑨嫌なことから逃げないで頑張れた。②コツコツ努力すれば着実に力がみにつくと分かった。③計算機の使い方が分かった。「M+」の使い方を知った。
- ⑩数学よりも難しく感じたが、**MSLC** を利用しチュータリングを積極的に受けることで、少し計算が好きになった。また、割合の分野を最も苦手としていたが、今となっては1番得意で好きな分野になっている。統計学基礎を履修して良かった。
- ⑪毎回、課題を頑張って提出していたので、自分が思っていたより成長することができた。特に、%の計算など、基本的なことを完ぺきにできるようになったことがとてもうれしい。**SPI** のプリントで、計算問題も行ったので、教的处理対策の第一歩になったと思う。数学への苦手意識がなくなってよかった。この講義をとって本当によかったです。ありがとうございました。
- ⑫予習・復習課題をかならずやることを計画して授業を行ってきました。計画どおりやっていくことで中間試験8割以上取ることが出来ました。少しずつですが数学に対して理解できるようになったと感じます。ですがまだまだ出来ないことが多く時間のたりなさを実感しました。基礎計算力をもっとつけていくためにこれからも学習していきたいです。
- ⑬最初の方は「難しい」という意識が強かったが、授業を受けていくうちにわからなくてもわかる知識を使って解いてみようと思うようになった。また、予習・復習をしたときは授業中もスムーズにできたので予習・復習をすることの大切さを知った。「確率」や「データの読み取り」など苦手を克服できたのでこの授業を取って良かったと思った。また、エクセルや電卓の使い方はこの先も利用する機会が多いと思うので、学んだことをこれから活かしていきたい。
- ⑭方程式を理解して、数学的思考から、答えを導きだすことができるようになった。統計学基礎で重要な正規分布について正しい知識をつけて解答することが出来た。苦手ということできずと逃げてきた部分があるが、大学で克服するという目標をもって、一回も休まず出席できた！
- ⑮分散・標準偏差・偏差値の求め方など理解することができました。グラフの読み取りや比べ方などを判断できるようになりました。標本の母集団など何の話をしているか全くわかりませんでしたが最後には信頼区間の求め方なども覚えることができました。
- ⑯割合、百分率の計算の仕方はもちろん、箱ひげ図や度数分布表の作り方、計算の仕方を覚えることが出来ました。基礎を学ぶことによって、応用的な問題にも挑戦することができる楽しさを、統計学基礎を通して学ぶことができ、自分の成長を感じることができました。
- ⑰数学に対する意識が変わりました。今までずっと苦手意識が強く解く気力もなかったのですが、統計学基礎の授業を受けて、少しずつ見方が変わってきました。後期で統計学を取るの、学んだことを活かせるように頑張りたいです。

(8) アンケートの結果

◇統計学基礎を受講してどのような力がついたと思いますか。

- ①計算力 ②考える力 ③問題をしっかり理解して解く力 ④基礎的な数学
 ⑤データを読み取る力 ⑥苦手なこと、嫌なことから逃げずにきちんと向き合う力 ⑦統計基礎力 ⑧Excel など統計的な問題を解く力 ⑨計算力、数学の知識がついたと思う
 ⑩考えることを諦めない力 ⑪解けたときの達成感 ⑫基礎の力がついた

⑬忍耐強く物事に取り組む力 ⑭計算をするにあたっての基礎的な思考力、考え方
 ⑮統計の結果を見て、考える力 ⑯苦手意識がなくなった ⑰諦めずに解いてみようと思う力
 ⑱数学への苦手意識が減った ⑲基礎的な学力 ⑳苦手な問題に対して意欲的に取り組む力
 ㉑データのとり方や基本的な計算する力 ㉒表面的な計算だけではなくて仕組みもわかった
 ㉓自分で考えて公式を当てはめる応用力がついた ㉔統計的な基礎知識 ㉕問題を読み解く力
 ㉖粘り強さ ㉗電卓の使用法、公式の使い方 ㉘計算方法継続してやり遂げる力
 要望 ※もっとチューターさんの数を増やしてほしい（授業）

◇授業に関するアンケート

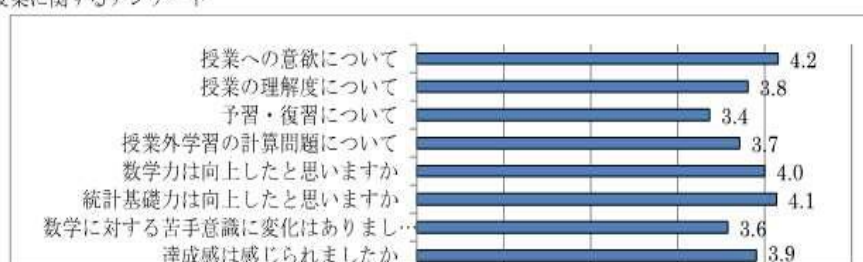


図4 「統計学基礎」の授業についてのアンケート結果

◆MSLCに対する意見・感想・要望等

- ①分かりやすく、授業でわからないところも分かりやすく教えてくれた。
- ②丁寧な指導をしてくださいました。解けたときには一緒に喜んでくれるし、わからないときには分かるまで教えてもらいました。皆さん優しく教えてくれました。
- ③数学以外のこと、大学のこともたくさん教えてくえで、MSLCに通うのに抵抗がなくなった。
- ④チューターさんが丁寧に教えてくださってありがたいです。
- ⑤MSLCの人たちはみんな細かく分かるように教えてくれた。テンションも高めで、楽しくやることが出来た。
- ⑥どうして数理学習センターのチューターをしようと思ったのですか。
- ⑦MSLCがあって良かったです。無かったらまったく理解できませんでした。
- ⑧自分自身の数学、統計基礎力がかなり不十分だったため、理解度の差がすごかった。
- ⑨わからない問題があっても、優しく丁寧に教えてくれました。
- ⑩説明と解き直しはいらないから丸付けだけして、返してほしい。
- ⑪どんなに忙しくてもチューターさんがいていいで嬉しかったです。
- ⑫1つ1つ優しく教えてくれるので学びやすかったです。これからも活用したいと思います。
- ⑬わからないところとかまちがえたところを教えてくれたので良かったです。
- ⑭自分が理解できるまで何度でも説明してくれて分かりやすかった。
- ⑮4月にTRを受けたことがある。とても丁寧に分かりやすく教えてくれた。
- ⑯勉強しやすい空気がいい。チューターの対応は素晴らしかった。
- ⑰いつも丁寧に教えてくれたチューター（いつも来てくれるチューターさん）に感謝
- ⑱答えの確認だけでなく、様々なアドバイスをくれた。
- ⑲理解できるまで説明してもらえたので良かった
- ⑳4階なので行く気が起こらなかった。1階に宿題の提出BOXがほしい。
- ㉑毎回わからない状態で私は行っていたけど、全ての問題を細かく教えてくれて助かりました。
- ㉒説明とかがよく分かりやすかった
- ㉓分からない所を優しく分かるまで教えてくれたので良かった

<後期：数学(高安)>

- ① 目的 ・数学の講義を受講する生徒の数学力向上
 ・学習サイクルのサポート
 ・数学の講義を受講する生徒の授業外学習の支援

② 課題内容

表7 「復習課題」(全15問)

第1回	数と式
第2回	指数・対数
第3回	方程式・不等式・線形計画法
第4回	行列
第5回	数列の一般項
第6回	数列の応用
第7回	順列の組み合わせ
第8回	集合・確率 中間試験対策
第9回	推論
第10回	平均値・標準偏差
第11回	母平均の区間推定
第12回	標準誤差と信頼区間
第13回	微分
第14回	円の方程式
第15回	期末試験対策

表8 「予習課題」(全10問)

予習課題 NO1	相似比と白銀比
第3回発展課題	エクセルソルバーの活用
第4回発展課題	エクセル行列と連立方程式
第6回予習課題	単利法と複利法
第8回予習課題	順列・組合せ
第10回予習課題	代表値
第12回発展課題	母平均の区間推定
第12回予習課題	微分法
チャレンジ問題①	上級公務員試験対策問題
チャレンジ問題②	図形に関する問題
第14回発展課題	方程式と関数
第14回予習課題	円の方程式

表9 「SPI 問題」(全10回)

回数	内容	回数	内容		
第1回	年齢算	第5回	集合	第8回	流水算
第2回	N進法	第6回	確率	第9回	速度算
第3回	順列・組合せ	第7回	濃度算	第10回	通過算

③課題提出状況(課題提出率82%)

- ・冊子で「最適化問題」を配布した。内容は、線形計画法を用いて最適解を導く問題である。この問題は、エクセルを用いて解を出すように努めた。(第3回発展課題)
- ・「中間試験対策問題」「期末試験対策問題」は、チューターが作成した。過去の対策問題を元に問題作成を行った。(※最低でもテストの2週間前までには作成しなければならない。)
- ・授業外学習として、「SPI 問題」10回分を3回に分けて配布した。

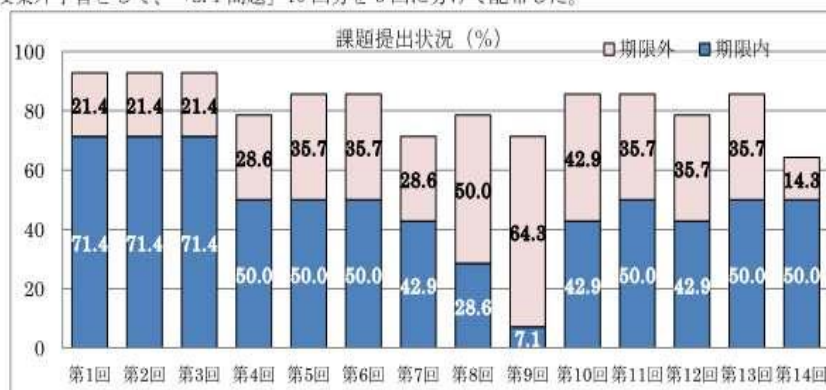


図5 数学課題提出状況

④学習前後の効果測定（第1回目の診断テストと第9回目の中間試験の得点率比較）



図6 診断テストと中間試験の正解率比較

【考察】

- ①受講者のMSLC利用率が100%に達したのは、毎回課題提出があり義務づけられていたからだとと思われる。
- ②第1回の授業で行われた診断テストは、授業外学習でMSLCを利用して学び直しを行った。その結果、中間試験の結果がいずれの分野でも高い正解率であったのは、MSLCとの連携授業の成果であると捉えている。
- ③課題提出は14回の平均利用回数が11.5回で、提出率は82%であった。

【課題】

- ①年末年始に休みがちになり、課題やレポート課題の未提出等で単位を取得できなかった受講生がいた。途中の面談も行ったが改善されなかった。
- ②受講生の習熟度に差があり、課題の見直しを検討する必要がある。

<後期：統計学>

- ①連携方法：統計学受講者に対し予習課題・授業演習問題・復習課題のWBを配布。受講者は復習課題、予習課題を自宅で解き、MSLCで解答を行った。なお、必要に応じて、MSLCで講座を実施した。

- ②開講講座：開講講座は以下のとおりである。

- ・自習課題対策講座 ・中間試験対策講座 ・授業内容補完講座 (New)
- ・発展課題対策講座 ・期末試験対策講座 計5個

③講座の詳細

- ・自習課題対策講座：統計学の授業第3週目から配布する自習課題の解説を行う講座。3週にわたり週1回ずつ行った。
- ・中間試験対策講座：中間試験を控えた受講生に向けて、試験対策問題の解答・チュータリングを行った。
- ・授業内容補完講座：後期は冬休みを挟むことにより休み明けの授業がスムーズに理解できるよう新しい取り組みとして行った。
- ・発展課題対策講座：1月下旬に提出する発展課題レポート（自分で100個のデータを集めて区間推定を行うレポート）をサポートする講座。
- ・期末試験対策講座：期末試験前に試験対策問題を配布し、受講生に解答・TRを行う講座。今回は課題の解説、並びに補足のプリントを作成した。補足のプリントは期末試験の範囲の一番の山場

④課題提出状況

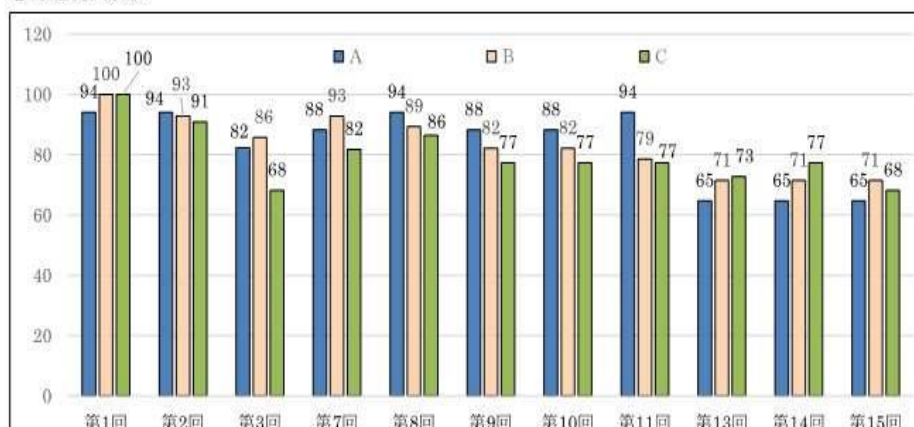


図7 統計学課題提出率

【考察】

- ・課題提出率はAクラス83%、Bクラス83%、Cクラス80%とほぼ同じであった。
- ・連携授業のチューターの感想

今期は5名で連携が始まったが、うち3名は新規チューター、1名は授業等で講座の参加が厳しい状態にあった。ワークブックの数字の打ち換えや、解答作成など、とても困難な状況にあった。しかし、協力しながらできたように思える。また、今期は新しい取り組みとして、授業内容補完講座の実施、期末試験対策講座における講義形式の解説などができた。また、各範囲についての解説プリントをいくつか作成し、来期以降に受講する学生により、細やかな学習支援を行うことができるようになった。

来期（2019年度前期）は、MSLCチューターとしての人数が少なく、統計学担当も新規・継続合わせて4名しかいないので、協力して頑張ってもらいたい。

<後期：診療系科目>

I 連携授業目的

- ①診療系科目を受講する学生への学習支援
- ②自己学習の促し(予習・復習)
- ③「診療情報管理士」認定試験対策

II 連携科目

- ①臨床医学各論 I
- ②診療情報管理系特別講義
- ③医療統計学

連携方法

- ・テキスト、その他参考資料をもとに1問1答形式の課題を作成
(臨床医学各論 I 全14回、医療統計学 全2回、診療情報管理系特別講義 全10回)
※医療統計学の課題のうち、1回分はHADを用いた発展課題を作成
- ・担当教員と課題内容の確認を行い、受講者に配布
- ・チューターによる課題の解答を行い、名簿にチェックを行う

Ⅲ 課題提出状況



図8 臨床医学各論Ⅰ課題提出状況

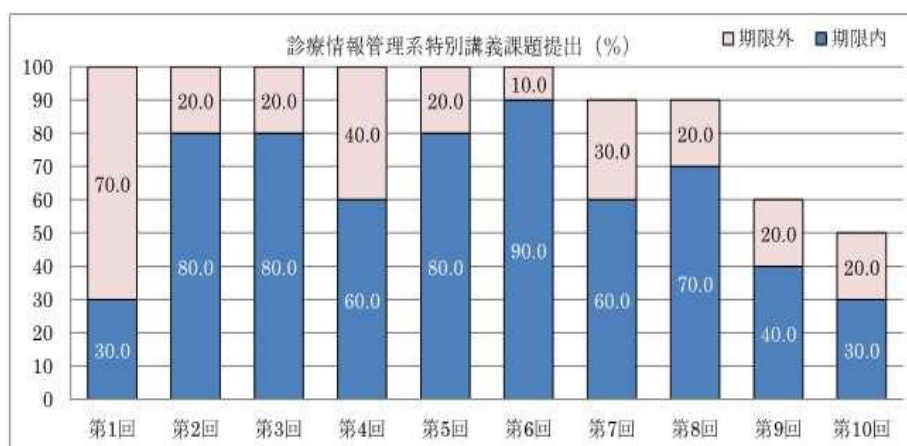


図9 診療情報管理系特別講義課題提出

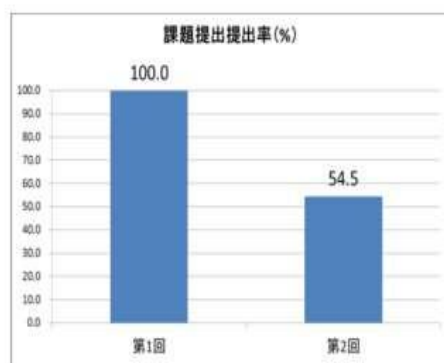


図10 医療統計学 (%)

Ⅳ 考察

- 課題提出率
臨床医学各論Ⅰ：93% 診療情報管理系特別講義：89% 医療統計学：77%
- 良かった点
 - ・全学年対象に支援することができた
 - ・新たな問題の作成
診療情報管理特別講義 → 分類法の問題
医療統計学
- 課題・改善点
 - ・問題形式、課題内容の改善

Ⅴ 来期への取り組み

- 連携授業：人体構造機能及び医療用語、臨床医学各論Ⅱとの連携 → 課題内容・問題形式の見直し
- 講座：診療情報管理士認定試験に向けた勉強会 → 受験生に合わせた支援(基礎・専門)

<後期：情報科目>

I 連携内容・連携目的

・連携内容

科目名：コンピュータ概論（金曜2限）

担当教員：天願健 担当チューター：宮川寛太郎・安田美里

受講者数：95名（4年次：4名 3年次：14名 2年次：36名 1年次：41名）

・連携目的

- ① コンピュータ（ソフトウェア）の基礎知識を深める
- ② コンピュータ概論受講者への学習支援
- ③ ITパスポート受験者への学習支援

II 連携方法

①課題（中間試験までと期末試験までの2回分）を作成し受講者に配布

②チューターが課題の解答を行い、課題冊子に担当チューターのサインを書き、名簿に点検のチェックを行う（希望者にはチュータリングを行う）

※必要に応じて追加のプリントを作成し、講義内にて配布

III 課題内容

・前半課題①～⑨（計9枚）

- | | | | |
|----------|------------|---------------|----------|
| ①プロセッサ | ②メモリ | ③記録媒体・記憶階層 | ④入出力デバイス |
| ⑤システムの構成 | ⑥システムの評価指標 | ⑦ハードウェア・入出力装置 | |
| ⑧出力装置 | ⑨ハードウェアまとめ | | |

・後半課題⑩～⑭（計5枚）

- | | | |
|-------------------|-------------|--------|
| ⑩OS（オペレーティングシステム） | ⑪ファイル管理 | ⑫開発ツール |
| ⑬マルチメディア | ⑭ハードウェア振り返り | |

IV 課題提出状況（提出率：62%）（MSLC利用率：71.6%）

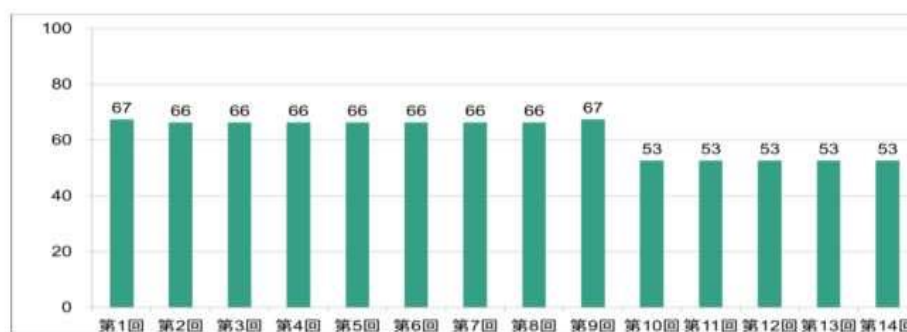


図 11 コンピュータ概論の課題提出状況

VI 考察

（成果） ・適切な課題の作成

・受講者が難しいと感じる問題の把握

（課題・改善点）・課題提出率の低さ →課題点検方法、問題形式、課題内容の改善

・計算問題への対策の実施

・ITパスポート試験勉強につなげるための取り組みの実施

→ITパスポートの紹介、呼びかけの徹底、点検に来た際に問題を渡してみるなど...

- ・情報系の講座を開く
- ・より良い解答冊子の作成
→見にくかったため、見やすいものを工夫して作成。参考プリントを作成する。

Ⅶ 来期への取り組み

- ・情報システムズ専攻の先生に協力を仰ぎ、講座を実施する。
- ・課題の見直しと早期作成・内容の把握に努める。
- ・ITパスポート試験対策問題・講座を実施する。
- ・担当チューター以外でも点検しやすいような点検方法を考える。
見やすい解答冊子の作成をする。

<情報科学と社会>

I 連携授業詳細

担当教員：佐久本功達教授

クラス名：Aクラス

受講者数：39名

Ⅱ 連携目的

- ・SPI非言語領域で出題されるN進法の問題を理解する。
- ・N進法による数の表現方法を理解する。

Ⅲ 連携内容

- ・SPI②（N進法）の課題の解答・チュータリング

Ⅳ 提出状況

課題提出率 66.7% 数理学習センター利用率 66.7%

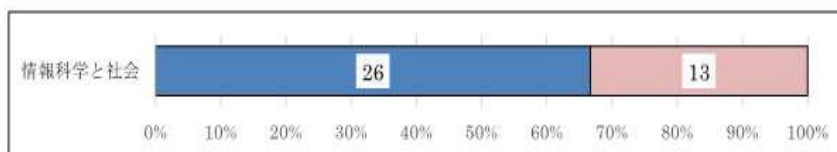


図12 情報科学と社会の課題提出（人）

V 考察

<成果>

- ・学生へチュータリングを行うことでN進法の根本的な理解のサポートができた。

<課題および改善点>

- ・学生への呼びかけが不十分であったため、今後呼びかけを行う必要がある。
- ・試験的な連携であったので、今後連携を強化し様々な内容を取り扱えるようにする。

8. 平成 30 年度チューター育成プログラム

(1) 表 10 チュータートレーニング（前期）

回	予定日	チュータートレーニング①プレゼン	②チュータリングロールプレイ
事前 研修会 一日目	4/9	①MSLC の目的 ②議事録作成(記録と管理) ③役割分担(運営) ④情報共有(SNS へのアップの仕方)	①数学診断テスト数検 2 級、準 1 級 ②上級公務員試験非言語分野問題 ③Excel 講座（ソルバーで最適化問題） ④行列演習エクセル活用（連立方程式）
研修会 二日目	4/10	①役割分担(連携授業)	①統計学の演習 ②エクセル講座
第 1 回	4/13	ディスカッション①	公務員試験問題（時計算）
第 2 回	4/20	コミュニケーションスキル、アサーティブネス、困難な学習者の扱い方	SPI 問題（濃度の計算）
第 3 回	4/27	ファシリテーションスキル	Excel（最適化問題）
第 4 回	5/11	ロールモデルと目標設定	Excel（行列）
第 5 回	5/18	集団の TR	対数（複利計算）
第 6 回	5/25	条件付き確率とベイズの定理	数列（ローンの返済）
第 7 回	6/1	リーダーシップとマネジメントスキル	集合
第 8 回	6/8	ディスカッション②	集合
第 9 回	6/15	文書管理	統計（母平均の区間推定）
第 10 回	6/22	スライド作成とプレゼン技法	統計学基礎・統計学（標準化）
第 11 回	6/29	スタディースキル	統計学基礎 Excel（相関係数）
第 12 回	7/6	前学期振り返り	z 検定、SPI 問題（速度算）
第 13 回	7/13	プロジェクト発表会リハーサル	上級公務員試験問題、Excel（極値）
第 14 回	7/23	プロジェクト発表会リハーサル	
第 15 回	7/27	プロジェクト発表会	
第 16 回	8/3	プロジェクト発表会振り返り	

(2) 表 11 チュータートレーニング（前期）

回・日付	チュータートレーニング、活動内容	TR ロールプレイ
第 1 回	10/1 評価について	指数方程式
第 2 回	10/8 スライド作成及びプレゼン技法について	対数
第 3 回	10/15 コミュニケーションスキル・アサーティブネス	エクセル 線形計画法
第 4 回	10/22 スタディースキル	数学 行列と連立方程式
第 5 回	10/29 ディスカッション(TR ロールプレイの形態・MSLC の理念)	標準偏差の活用・標準化
第 6 回	11/5 カウンセリング研修	偏差値
第 7 回	11/12 利用者統計の中間報告	正規分布
第 8 回	11/19 ファシリテーションスキル・リーダーシップ	ベイズの定理
第 9 回	11/26 グループディスカッション(Google アンケートについて)	統計学 母平均の区間推定
第 10 回	12/10 社会人基礎力について	統計学 発展課題 エクセル
第 11 回	12/17 後期活動内容振り返り	3 次関数
第 12 回	12/24 プロジェクト発表会リハーサル①	上級公務員試験対策問題 通過算
第 13 回	1/7 プロジェクト発表会リハーサル②	上級公務員試験問題、Excel で極値
第 14 回	1/21 プロジェクト発表会リハーサル③	
第 15 回	1/28 プロジェクト発表会	

※今年度のチュータートレーニングは、プレゼンテーションによる研修もチュータリングロールプレイもリフレクションペーパー及び評価シートを改善し、1 人 1 人の評価が明確になるように工夫した。途中でアンケートは Web 入力をしたが、改善点が多く検討が必要である。

(2) チューターの評価

次の項目について、チューターの相互評価と MSLC 担当職員、センター長がそれぞれ行う。

- ①基本的マナー(言葉づかい・時間を守る・挨拶・利用者との対応等)、②責任感、③協調性、
- ④向上心、⑤チュータリング力、⑥リーダー性(指導力)、⑦チューター同士の関わり方

(3) センター長によるチューター面談 前期 3 回(5 月・6 月・8 月)、後期 3 回(10 月・12 月・2 月)

チューターは自己の活動及び成長を可視化するために、マネジメント点検表を作成する。それに基づきセンター長と学期に 3 回面談を行う。チューターが毎回記載する自己点検チェックリスト(5 段階評価)も参考にする。センター長はチューターの意欲や業績を評価し、チューターへの激励や指導助言を行い、円滑なセンター運営・管理に活かすことを目的とする。

▽マネジメント点検表

- ・前期の成果と課題→今期の目標設定
- ・運営面・学習面・その他(自己の学業・その他)の 3 つの項目について記載
 - 1 回目：今期の目標設定とその手立てを記述
 - 2 回目：活動の中間報告
 - 3 回目：今期の活動の総括を行い成果と課題及び自己評価も記入

▽チューターの調査結果の共有

- ・自己理解を深める性格を知る調査(①外向性、②情緒不安性、③開放性、④誠実性、⑤調和性)
- ・社会人基礎力調査(①前に踏み出す力、②考え抜く力、③伝える力、④チームで働く力)

(4) 検定対策講座と結果

- ・今年度から統計検定の団体受験応募条件が変更となり、10 人以上の受験希望者がなく後期のみの実施となった。
- ・実用数学技能検定は、他の行事等と重なり受験人数が少なかった。

表 12 検定取得者数

今年の合格者	前期	後期
数学検定 2 級	0	5
2 級 1 次のみ	4	2
統計検定 2 級		0
〃 3 級		3
これまでに合格しているチューター		
取得者	前期	後期
数学検定 2 級	6	8
2 級 1 次のみ	7	5
統計検定 2 級	1	0
〃 3 級	5	6

(5) 平成 30 年度のチューターの昇格

昇格条件：①事前研修、定期研修を受ける ②チュータリング時間 25 時間以上、③数学検定等の合格 ④チューター講座の企画・実践・報告

前期のチューターの昇格は、アドバンス 2 人、レギュラー 2 人、合計 4 人であった。後期の昇格予定は、アドバンス 2 人、レギュラー 2 人であった。

7. まとめ

[成果]

- ①苦手科目克服を目標に、定期的にチュータリングを受けて努力する受講生がいる。
- ②数学基礎力に課題を抱えた学生のための自然科学特別講義「統計学基礎」の連携授業を通して、必要な学生への学習支援ができた。
- ③広報担当チューターが月刊 MSLC、センター長が数理学習センターだよりを発行した。

[課題]

- ①入退室管理の徹底及び利用者統計の集計の迅速化

②各種検定の受験率及び合格率の向上

③学習センターの利用率を 100%にすることが求められているが、数理系科目の学習支援では現在の体制では厳しく、自然科学系担当教員や情報担当教員との連携協力を求める必要がある。

MSLC における学習支援は、連携授業の数学・統計学基礎・統計学はチューター全員がチュータリングを行うことが原則となっている。そのためチューターも 15 週通して 3 科目の課題を解かなければならないため、チューターの負担も大きい。課題の点検だけでも授業外学習を促進することが可能なので、自然科学系担当教員や情報担当教員との連携協力をお願いしていきたい。

検定取得に向けては、シフト以外での自習やトレーニングを行う必要もあるが、チューターに時間的ゆとりがなく検定対策が十分できなかった。チュータリングロールプレイのトレーニングにおいては、先輩チューターから学ぶことが多かったというチューターの感想もあった。

チュータートレーニングの意義を十分理解していると思われるので、研修計画はチューターの意見や要望も取り入れながらスクラップ&ビルドを心がけていきたい。

(文責 数理学習センター長 高安美智子)

3.3 ライティングセンター活動報告

1) MWC の目標

センターは、全学学生・教職員を対象とし、多様な領域にまたがる文章の論理的構造の理解と論文作成法の習得を支援することで、個々の発信力を強め、学術的文章を書く力を育てることを目的とする。（センター規定より）

2) MWC の活動

- (1) 学部・大学院生チューターの育成と指導およびチューター業務監督
- (2) アカデミックライティング科目のコーディネートと関連科目・組織との連携
- (3) タームペーパーの指導法と開発およびコンサルティング
- (4) 文章力・論文執筆向上に係る授業方法指導・開発
- (5) その他目的達成に必要と認められる活動（センター規定より）

3) MWC 構成員

・ センター長：奥本正（スポーツ健康学科）、副センター長：与那覇恵子（国際学群）

センター専任教員：真喜屋美樹（リベラルアーツ機構）、センター職員：平良翔

・ チューター：前期 16 名、後期 17 名

4) 主な活動内容

月	活動内容	月	活動内容
4 月		10 月	
5 月	新人研修会（13 日）	11 月	新人研修会（4 日） 高校生対象小論文講座（11 日） ワークショップ（ビジネスメール）（21 日）
6 月	オープンキャンパス（9 日） ワークショップ（小論文とレポートの違い）（14・15 日）	12 月	ワークショップ（大学と人生）（17・21 日）
7 月	ワークショップ（小論文とレポートの違い）（3 日）	1 月	
8 月	オープンキャンパス（11 日）	2 月	平成 30 年度ライティングセンター 報告会（8 日）

			早稲田大学ライティングセンター 合同研修会（19 日）
9 月		3 月	

5) センター利用状況 (チュータリング回数)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	合計
H30	4	43	65	136	4	0	0	3	56	24	0	330

※H29 年度：358 回、H28 年度：241 回

6) 連携授業

前学期：アカデミックライティング I、大学と人生

後学期：アカデミックライティング I (R クラス)、大学と人生、体育・スポーツ史、
文学、沖縄の文学

7) 学内・学外者対象のワークショップ・講座

1. ワークショップ

①レポートと小論文の違いって何？

目的：レポートと小論文の違いを理解し、レポート課題に活かす

日時：6 月 14 日、15 日、7 月 3 日

参加者数：計 33 名

②ビジネスメールの書き方

目的：就職活動前に正しいビジネスメールの書き方を理解するため

日時：11 月 21 日

参加者：9 名

③大学と人生のレポート対策

目的：タームペーパーの質の向上、アカデミックライティング I の内容の復習

課題提出前の MWC の予約混雑の緩和

日時：12 月 17 日、21 日

参加人数：計 4 人

2. 高校生対象小論文講座

目的：地域の高校生に小論文の書き方を理解してもらう

日時：11 月 10 日（土）9：00～16：00（1 回 240 分の講座を 3 回実施）

参加人数：29 名（宜野座高校：5 名、名護商工高校：1 名、名護高校：19 名、辺土名高校：1 名、北部農林高校：3 名）

内容：小論文の書き方に関する座学、小論文の執筆、チュータリング

もう少し早い時期にやってほしいとの希望があったため、次年度は早めの時期に実施できるように検討する。

8) チューター研修会

今年度は前期に 1 回、後期に 1 回のチューター研修会を行った。主に新人チューターを対象にセンターの目的、活動内容を説明し、実際のチュータリング体験を行った。また、2 月 19 日は早稲田大学ライティングセンターの講師を招き研修会を実施した。早稲田大学のセンターの状況やチュータリング方法について説明があり、後半はチュータリングを行い、その内容について講評をいただいた。普段できない体験ができ、今後のチュータリングに非常に参考なる研修会であった。次年度もぜひ実施していきたい。

9) チューターミーティング

センター開館期間中に週 1 回チューターミーティングを実施した。前期は月曜日の 6 限、後期は火曜日の 6 限に実施した。内容は前半はセンターに関する議題や報告を行い、後半はチュータートレーニング（勉強会）を行った。後期は 17 回チューターミーティングを実施した。後期の勉強会は先輩チューター（13 名）がチュータリングの経験談を一人 10－15 分で話し、その内容について質問した。チューターが悩んでいる点や困った点などが共有でき今後のチュータリングに生かすことできた。

10) 係活動

1. 企画・広報

企画係は主にワークショップや学外向け講座の資料を作成した。また日程の調整や人員の調整を行った。

広報係は企画した講座の宣伝を行った。Twitter や LINE 等の SNS を利用した告知、ポスターの作成、ニュースレターの作成等を行った。

2. 統計係

チュータリング記録を Google フォームを利用して行った。また、センター利用者も利用者アンケートを Google フォームで実施し、電子化を行った。また、センターの資料を Google ドライブに保存し、資料作成や情報共有を円滑化した。また、チャットソフトの Slack を用いてセンター内の連絡を行った。

3. 会計係

会計係は出面表の確認と、時間外での出勤時間の把握を行った。

4. 物品係

物品係はセンターで必要な物品の購入や物品の管理を行った。また、センターで購入している新聞の管理やセンター内備品のリスト作成を行った。

5. 育成係

育成係は新人チューターの育成プログラムをセンター長と相談しながら、プログラムを作成した。

11) 新人チューター育成

これまでも新人チューターの育成は行っていたが、試行錯誤の状態で行っており、プログラム化されていなかった。そのため、後期から新人チューター育成プログラムを作成し、それに基づいて新人チューターの育成を行った。

新人チューターの育成のゴールは自らの力でチュータリングができるようになるとした。また、育成方針や育成内容は随時センター長と相談し、基本的には既存チューターが新人チューターを育成するシステムとした。

育成する内容は①文章能力、②文章診断能力、③チュータリング能力の3つとした。

育成する能力	実施内容
文章能力	課題図書を読み、その要約文を作成する
文書診断能力	正誤問題、文章診断
チュータリング能力	・ チュータリング見学（録音、録画を含む）（5回以上） ・ ロールプレイ：チューターを相手にチュータリングを行う ・ 実地研修（5回以上）：実際に45分間のチュータリングを実施する。 ・ 独り立ち審査：学生（リーダー、副リーダー、育成係）とセンター長が審査員となり審査した。

総評

今年度は利用者数が昨年度より若干減少した。これは、連携授業のレポート提出方法が変更になったためと思われる。特に、後期のセンター利用に関しては課題を残した。これまでの統計はチュータリング回数のみをカウントしていたが、次年度からは関連図書や新聞購読、レポートの書式設定方法などの質問等でセンターを訪問する学生もカウントするように改善し、センターを利用した人数を詳細に検討する。

今年度は5月からセンター専任教員がセンター業務から外れるようになった。センター運営に支障がないようにライティングセンター運営委員の先生が輪番でセンターに入り対応した。各先生方の協力もあり、なんとかセンター運営を維持することができた。また、新人チューターの育成プログラムも作成し、それに基づいて新人チューターの育成を実施した。改善点も見つかったので、次年度のチューター育成では改良して運用していきたい。

他大学との合同研修会やセンター報告会など今年度初めて実施した。教員は実施の提案を行ったあとは、チューターが中心になって実施に向けて準備し、開催した。問題点もあったがおおむね好評であった。ただ、報告会の参加者が少なかったのは今後の課題であった。

次年度はこれまでのセンターの活動に加え、推薦入試合格者への入学前学習や入学者の学習困難者のサポートについてもライティングセンターで何ができるのかを検討していきたい。

(文責・ライティングセンター長 奥本正)